

予算委員会・文教委員会関係審査（2012年3月1日）

【心のサポート推進事業について】

西山さちよ：スクールカウンセラーの採用の実態と来年度以降の採用計画について伺います。

指導2課長：今年度市内の中学校に57名、全中学校に1名ずつ配置しています。週1回、年間40回の勤務で、さわやか相談員や教員などへの指導助言に当たっています。次年度についても、現在のところ同様の予定です。

西山さちよ：東京都では実績のあるカウンセラーは同一校6年を目安として配置を進め、専門性を十分に生かしていますが、さいたま市の現状について伺います。

指導2課長：スクールカウンセラーは市の非常勤職員として、基本的には1年ごとの任期です。平成23年度2年目以降継続して勤務をしている方が35人数です。今後も継続した勤務ができるような方向で考えたいと思っています。

西山さちよ：適応指導教室の成果及び課題、H24年度の運営体制について伺います。

指導2課長：不登校児童生徒、学校に行けない子どもたちの居場所となっています。また、不登校で悩む保護者や学校で支援に当たる教員の相談の場としても定着しています。平成22年度は66名の子どもが入室、そのうち55名、83%の子どもの登校日を増やす取り組みをしています。平成23年度12月末現在では72名の児童生徒が入室しています。今後の課題は、学校にも適用指導教室にも行かれない児童生徒を、適用指導教室につなげる方策を工夫することや、適用指導教室にいる子どもたちの社会的自立を促すための指導や体験活動を一層充実させていくことが課題と考え、平成24年度も取り組んでいきます。

【小中学校管理運営事業について】

西山さちよ：教員の臨時的任用教員の採用割合について伺います。

教職員課長：平成23年度4月6日現在で、臨時的任用の割合は小中合わせて13.9%です。

西山さちよ：埼玉県では臨時的任用教員を減らし、本採用を増やす予ですが、さいたま市について伺います

教職員課長：現在、さいたま市は独自に採用しています。臨任率を低くするという点についてはさいたま市においても課題であり、本年度実施の採用試験から、昨年度に比べて小学校教員は25人、中学校教員は30人増員で採用しました。前年度比、小学校では約1.2倍、中学校では1.5倍の採用数で臨任を少なくする努力をしているところです。

【特別支援教育推進事業について】

西山さちよ：特別支援学級、通級指導教室の児童生徒数および教室の設置状況、設置計画について伺います。

指導2課長：小学校の特別支援学級に在籍している児童は、平成23年5月1日現在459名、通常学級の生徒との割合は0.7%です。中学校の特別支援学級に在籍している生徒は250名、通常学級の生徒との割合は約0.8%です。

通級指導教室に通う小学生の児童は平成24年の2月現在、小学生が666名、率では1.0%、中学生が34名、率では0.1%です。

特別支援学級の設置状況は、平成24年度、北区、見沼区、南区、緑区の小学校5校、見沼区、中央区の中学校2校、計7校の予定で、小学校では37校、中学校で19校となります。

通級指導教室は、24年度、中央区と緑区の小学校に1校、計2校を設置する予定です。

西山さちよ：普通学級1クラスにおける配慮を要する児童生徒数と学級等支援員の配置状況および学級運営について伺います。

指導2課長：平成22年度、通常の学級で特別な配慮を必要とする児童生徒数は823名で全体の0.84%、平成23年度は、870人、0.88%となっています。

学級等支援員の配置状況は、23年度の12月現在では、小学校102校に116名、中学校51校に69名、合計で153校に185名の学級等支援員を配置しています。現在のところ学校から要望があった配置の日数については各学校の実態に応じて配置をしていますが、今後は、増やして欲しいという要望について配置の工夫をしていきたいと考えています。

【学校教育・中高一貫教育校推事業】

西山さちよ：現時点における成果と課題について伺います。

指導2課長：中高一貫教育の成果は、学校選択の幅を拡大したこと、中高一貫教育校の教育実践を市内の中学校へ普及できたという点です。また、中学校からの内部進学生が高等学校でリーダーとして活躍しています。課題は、中1から高校に上がる段階で入学の選抜がないため、中だるみの傾向が見られることです。

西山さちよ：今後の中高一貫の拡大について伺います。

指導2課長：開校以来、中高一貫教育校推進運営協議会を設定し、外部の方も交えながら検討をしているところです。来年度は完成年度となりますので、その推進運営協議会の人数や構成を拡大して、検証を進めたいと思っています。その検証を踏まえた上で、今後の拡大については総合的に判断をしていきます。

【英語教育充実推進事業について】

西山さちよ：小中一貫英会話の成果、今後の課題について伺います。

指導1課長：児童を対象に行ったアンケートや小学校5年生のときに学習した子どもたちの追跡調査から、コミュニケーションを図ろうとする意欲や態度が着実に小中一貫英会話を通してはぐくまれていると認識しています。

【教育扶助事業について】

西山さちよ：近年ますます増加傾向にある就学援助費を受けている児童生徒の認定率について伺います。

学事課長：在籍者数に対する就学援助の認定者の割合は、平成21年度の実績が7.91%、平成22年度が8.85%、平成23年度12月末現在で既に9.11%で伸びています。

西山さちよ：就学援助費を受けている児童生徒の増加の割合について伺います。

学事課長：平成21年から平成22年にかけては11%の増加、平成22年から平成23年12月末時点は3%の増加となっています。

【中学女子サッカー少女への支援について】

西山さちよ：中学女子サッカー少女への支援について伺います。

指導1課長：市内の女子サッカー部がある中学校は1校です。今後女子サッカー部が増えるという機運があれば、部活動外部指導者等の派遣も含め学校の方に積極的に教育委員会としても支援します。

その他、学校教育推進事業について、外国人学校就学補助事業について、教育情報ネットワーク推進事業について、各教科教材等整備事業について、環境教育推進事業について、共通物品購入管理事業について、各校営繕事業について、体育館内装改修について、生涯学習センター管理運営事業について、地区図書館業務委託化事業について質問をしました。